

# 青森県の農林水産業

## 1. 本県農林水産業の重要性

### 〔食料供給力〕

本県のカロリーベースによる食料自給率（平成20年度確定値）は121%である。例年110～120%の高い水準を保っている。

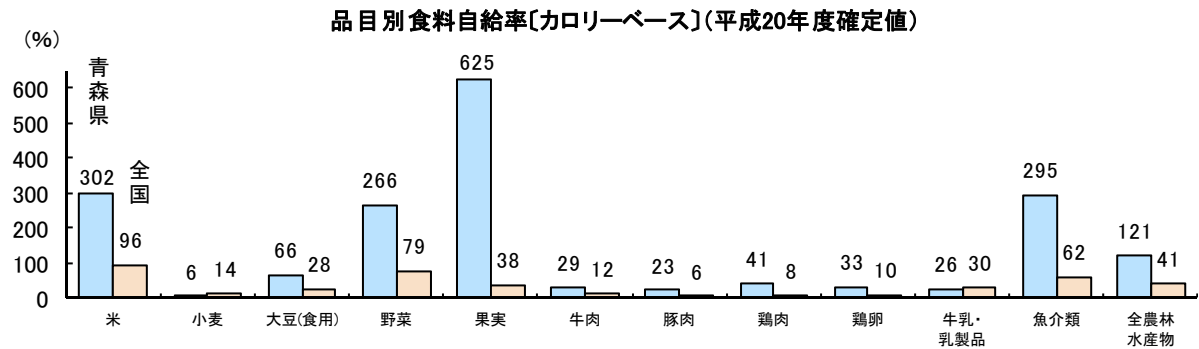
また、品目別自給率では、りんごを主体とした果実をはじめ米、大豆（食用）、野菜、肉類、鶏卵、魚介類などが全国平均を上回り、食料供給力が極めて高くなっている。

### 〔経済波及効果〕

関連産業と合わせた生産額と就業者数は、それぞれ県全体の17%、27%を占め、県経済に占めるウエイトが高くなっており、関連産業と合わせた合計生産額は約1兆3,400億円で、これは農林漁業生産額の3.7倍に相当する。

### 〔農業・農村がもつ多面的な役割〕

本県農業・農村がもっている県土保全などの公益的な役割を推計すると、1,900億円余りになり、農業産出額の約70%に相当する。このうち、中山間地域は約700億円で、県全体の35%となっている。



資料：東北農政局試算

## 農林漁業・食料関連産業の生産・就業規模(平成12年)

区分	農林漁業 A			食料関連産業						農林漁業食料関連産業計 B	全産業合計	B/A	
	農業	林漁業	計	関連製造業		飲食店	関連投資	関連流通業					計
				食品工業	資材供給			商業	運輸				
生産額(億円)	3,004	671	3,675	4,070	433	2,010	851	2,154	243	9,761	13,436	78,789	3.7倍
(構成比)	3.8%	0.9%	4.7%	5.2%	0.5%	2.6%	1.1%	2.7%	0.3%	12.4%	17.1%	100.0%	
就業者数(千人)	103	11	114	25	1	23	8	38	2	97	211	793	1.8倍
(構成比)	13.0%	1.4%	14.4%	3.2%	0.1%	3.0%	0.9%	4.8%	0.3%	12.2%	26.6%	100.0%	

資料：農林水産省「農業・食料関連産業の経済計算」をもとに県統計分析課が作成

- 注 1) 農林漁業：特用林産物のデータは産業連関表183部門表・雇用量表183部門(いずれも未公表)を使用。  
 2) 資材供給産業：生産額は産業連関表基本表・雇用量表183部門(いずれも未公表)を使用。  
 3) 関連投資：生産額は、基本表から農業機械、食料品加工機械、その他の船舶、農林関係公共事業を抽出。  
 就業者数は、雇用量表183部門の「その他の特殊産業用機械」「船舶・同修理」「公共事業」の数字から、生産額の構成比を使って推計。  
 なお、公共事業のうち漁港・漁場関係部分は単独での抽出ができなかったため省略した。  
 4) 流通業：国における全産業国内生産額計に対する農業・食料品関連産業の比率を使用して推計。

## 公益的な役割の年間評価額

(単位：億円、%)

大分類	中分類	評価額		うち中山間評価額	
		金額A	構成比	金額B	B/A
自然環境保全	国土保全	1,645	85.2	559	34
	生物形態系保全	33	1.7	14	43
社会文化保全	アメニティ	220	11.4	95	43
	教育・文化	33	1.7	14	43
合計		1,931	100.0	682	35

資料：本県農業・農村の公益機能の評価(県農業研究推進センター(H12年3月))

## 農業生産額との対比

公益的な役割の年間評価額	A	1,931億円
農業産出額	B	2,825億円
対比	A/B	68.4%

注) 農業産出額は、平成9年と10年の平均

資料：県農業研究推進センター

## 2. 本県農林水産業の優位性・可能性

本県は、各種統計データや試験研究成果、現地の優れた事例などから、本県農林水産業の優位性や今後伸ばすことのできる潜在的な可能性があり、これらを産地力強化の足がかりなどとして活用していくこととしている。

### 〔夏季冷涼など変化に富む気象〕

夏季は、冷涼で日照が多い気象条件下にあり、関西以西などで収量や品質が低下する農作物を生産・販売ができる。また冬季は、県南地域での多日照を生かした施設栽培が可能である。

### 〔生産力が高い農地〕

生産力が高いとされる2等級以上の土壌が多く、農地も維持されており、品質、収量の維持・向上が可能である。また地域別に特色のある土壌が分布し、幅広い作物の栽培が可能である。

### 〔多様な海域特性と好漁場〕

太平洋、津軽海峡、日本海と三方を海に囲まれ、我が国屈指の内湾である陸奥湾を抱えており、海域特性に応じた多様な漁業の展開が可能である。また、暖流と寒流が混合する太平洋沖合海域は世界的な好漁場であり、これを背景として大規模な水揚・加工機能が発達し、全国でも有数の産地として市場の拡大が期待できる。

### 〔安全な農産物を供給できる環境〕

病害虫の発生が少なく農薬の散布回数も軽減でき、消費者の「安全・安心・健康」ニーズに対応した農産物の生産供給が可能である。また、本県独自の「特別栽培農産物認証制度」などを活用して、有機栽培や減化学肥料栽培に取り組む動きが拡大している。

### 〔改善される輸送体制と産地拡大の期待〕

道路網や予冷・貯蔵施設の整備、流通資材の開発・普及により、遠隔地への輸送体制が整っていることから、鮮度の高い農産物を全国に供給し、市場評価を高めることができる。

### 〔意欲的な担い手の存在〕

農業就業人口に占める基幹的農業従事者の割合が高く、比較的若手農業者も多いことから、こうした人的資源を生かして農業を発展させていくことが可能である。

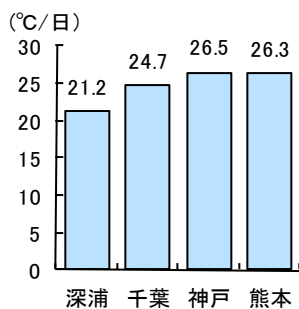
### 〔関連産業も含め広い分野へ波及〕

本県は、米、野菜、果実、畜産の生産バランスが良く、林産物や水産物も多いなど、加工資源が豊富にあることから、自信をもって様々な加工品づくりに取り組むことができる。

### 〔冬の農業の可能性〕

津軽地方は降雪量が多く、県南地方は日照時間が長いという、冬季の気象の地域多様性を生かし、津軽では雪を生かした貯蔵、県南では多日照を生かした施設栽培を行うことが可能である。また、全国有数の豊富な温泉資源を農業へ利用することも期待できる。

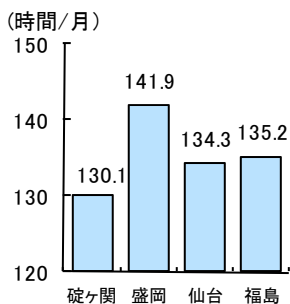
夏季の平均気温(7~9月)



注) 深浦は県内最高の地点

資料: アメダス平年値

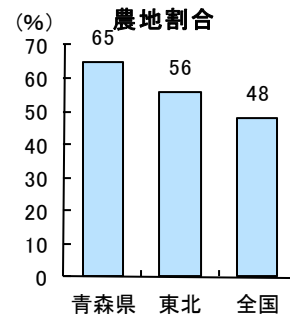
夏季の日照時間(7~9月)



注) 碓ヶ関は県内平野部の最小地点

資料: アメダス平年値、準平年値

全農地に占める2等級以上の農地割合



注) 生産力の阻害要因が少ない等級と2等級の合計

資料: 日本の耕地土壌の実態と対策(S52)